

(参考資料) 米国調査：DTx業界の変化-海外学会DTx East*で得られた示唆

- 2021年までは、臨床的有用性を示してアプリが治療として使えることを示していくことへの重要性が議論されていたが、今年は、実際に治療アプリとして幅広く使われるためにどのように差別化をはかっていくかについての議論がなされていた。

～2021年 検証フェーズ

アプリが治療に使えるのは本当か？
＝「臨床的効果がある」ことを示す

2021年は普及のための方針が話されていた

1. **Clinical science:** 効果効能の科学的検証・証明、DTx導入による医療コストダウンの証明
2. **Engagement science:** 患者のモチベーションを高める工夫
例：完全デジタルではなく、人とのコミュニケーションを含めたハイブリッド方式
3. **Implementation science:** 無理なく医療フローに溶け込み、医療者の感じる課題を解決し、ストレスも減らす工夫。（医療者のDTxへの理解を深め、DTx導入によりデータや手間が増えるという誤解を解くことも含む）
例：処方アプリの場合、
×→App storeからダウンロード ○→医師から処方

2022年 ビジネスフェーズ

治療に使えるアプリは売れるのか？
＝「使われるものである」ことを示す

2022年は具体的に何をするか、が話されていた
→これが各DTx提供会社にとって差別化戦略へ

- ・ 例1：Akili Interactive社の‘Equity’評価
- ・ 例2：Pear Therapeutics社の圧倒的な臨床的効果の提示

*DTx East

東海岸（ボストン）で年1回開催されるDTx界での大きな学会。DTx界のトレンドや各DTx提供会社の近況について知ることができる。またFDAもガイドラインについての講演を行ったり、各社のCEO/CMOが登壇することも多いので、収集できる情報量が他の学会と比べて圧倒的に多い。

その他に、西海岸（DTx West）でも年1回開催されており、2022年からはアジア（DTx Asia）も開始された。